

1 本年度の教育目標

夢や目標に向かい 挑戦する八幡っ子の育成

2 本年度の重点目標

〈挑戦する子ども〉 夢や目標をもち、友だちと磨き合いながら達成に向けて粘り強く挑戦できる。
 〈活かす 子ども〉 基礎基本の力を確実に身につけるとともに、学んだことを新たな学びや生活に活かすことができる。
 〈豊かな 子ども〉 自分の考えをもち、友だちと伝え合うことをとおして、考えを広げたり深めたりできる。

3 評価結果

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価指標	達成状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価
【涵養】 挑戦する子ども 学びに向かう力・人間性	○学期末の児童アンケートにおいて自分の目標を達成できたという児童の割合を80%以上にする。 ○学期末の児童アンケートにおいて「徒歩通学ができた」と回答する児童の割合を90%以上にする。	○挑戦意欲の向上 ○体力向上 ○徒歩通学学習慣化 ○	○学級担任は、2ヶ月に1回、学習と運動の目標を決めさせ、毎日確かめを実施し、達成した児童を「名人」に認定する。 ○学級担任は、毎日、朝の会で徒歩通学について確かめをする。 ○各家庭は、毎日、「早寝・早起き」に取り組む。 ○	○目標確かめカレンダー ○児童アンケート ○保護者アンケート ○教職員アンケート ○昨年度および今年度の体力テストの結果	○学期末の児童アンケートにおいて自分の目標を達成できたという児童の割合は95%。 ○4・5月達成者：学習30人 運動28人 6・7月達成者：学習26人 運動23人 ○2ヶ月に1回、学習と運動の目標を決めさせ、毎日確かめを実施し、達成した児童を「名人」に認定した教職員は100% ○学期末の児童アンケートにおいて「徒歩通学ができた」と回答する児童の割合は100%。 ○朝の会で徒歩通学について確かめをした教職員は100% ○毎日、「早寝・早起き」に取り組んだ保護者は100% ○体力テストAB層は89% CDE層は11%	4 4	○2学期後半は寒くなるので、徒歩通学の評価が下がらないように学級指導や保護者協力の呼びかけを継続する。 ○マラソン大会や町確認テストの後に目標の見直しを行う。	・「体力」を作り、気力、知力へつなげる取組でよいと思う。 ・朝早くからの徒歩での通学がよくできている。先生方の声かけが意識につながっている。
【知識及び技能の習得】 活かす子ども	○算数科の確認テストにおいて、全学年町平均を上回る。 ○市販テストの活用問題において、国語科（読解力）の正答率が全学年全国平均を上回る。	○基礎基本（算数科）の確実な定着。 ○読解力の育成 ○音読の学習慣化 ○	○全職員は、週3回、ドリルタイムで、プリント学習（算数科）を指導する。 ○学級担任は、毎日、家庭学習に読解プリントを出す。 ○学級担任は、金曜日の「言葉タイム」で、漢字テストを実施する。 ○保護者は、毎日、音読カードに認めをする。 ○	○学力テストの結果 ○校内研修・互見授業 ○音読カード集計表 ○児童アンケート ○保護者アンケート ○教職員アンケート ○地域・保護者の声	○算数科の町確認テストにおいて、全学年町平均を上回った学級は6/6（100%） ○週3回、ドリルタイムで、プリント学習（算数科）を指導した教職員は100%。 ○市販テストの活用問題において、国語科の正答率が全国平均を上回った学年は5/6学年。 ○毎日、家庭学習に読解プリントを出した教職員は100% ○金曜日の「言葉タイム」で、漢字テストを指導した教職員は100% ○毎日、音読カードに認めをした保護者は78%	4 3	○ドリルタイムの継続。 ○町確認テスト前2週間を復習期間に設定し、弱点教科を図る。 ○読解ドリルのやり直しの徹底。 ○作文タイムでの単文づくりで語彙力を鍛える。	・学校あがりの組織的な取組が素晴らしい。 ・算数の力は継続してほしい。国語については、間違ったところや分からないところを繰り返すことで力をつけてほしい。 ・スモールステップの継続をお願いしたい。 ・学校（先生方）のがんばりがすごい。 ・理科の分析と授業改善の必要性を感じる。
【表現力・判断力・思考力】 豊かな子ども	○学期末の児童アンケートにおいて「進んで自分の考えを書いたり発表したりできた」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ○学期末の教職員アンケートにおいて「振り返りを実施した」と回答する教職員の割合を80%以上にする。 ○学期末の児童アンケートにおいて「地域のことを知ることができた」と回答する児童の割合を80%以上にする。	○表現力の育成 ○地域学習の推進 ○ ○地域学習を支援	○授業者は、毎時間、学習者の考えをノートに書かせたり、発表させたりする。 ○授業者は、国語科・算数科の授業の終わりにふり返りをさせる。 ○学級担任は、学期1回以上、地域を知る学習を実施する。 ○学級担任は、年間2回以上、全校集会や地域で学習発表を実施する。 ○ ○地域の方々には、学期1回以上、学習支援（ゲストティチャー等）をする。	○児童アンケート ○保護者アンケート ○教職員アンケート	○学期末の児童アンケートにおいて「進んで自分の考えを書いた」と回答する児童の割合95%「発表した」と回答する児童の割合89% ○学期末の児童アンケートにおいて「地域のことを知ることができた」と回答する児童の割合は92% ○毎時間、学習者の考えをノートに書かせたり、発表させたりした教職員は100% ○毎時間、学習者の考えを交流する場を設定し、授業の終わりにふり返りをさせた教職員は100%（『4』評価は20%） ○学期1回以上、地域を知る学習を実施した教職員は100% ○年間2回以上、全校集会や地域で学習発表を実施した教職員は80% ○学期1回以上の学習支援（ゲストティチャー等）は100%	4 4	○タイマーを使って活動の時間を設定し、授業の流れを作る。 ○ホワイトボードやワークシートを使って考えを書かせる。 ○導入をスマートにし、「ふり返り」の時間を確保する。 ○計画通りに地域学習を進めていく。	・地域学習の推進で子どもたちの体験メニューが多くなれば良いと思う。 ・アンケート結果からは表現力もついできているのではないかと。 ・地域のことを知ることが大事なことだと思う。90%達成は大変良い。 ・地域の方々との交流をまだまだ行うとよいと思う。 ・人数が少なく、いろいろな場面で発表など子どもたちの声が聞けるのが嬉しい。